

人権啓発センター だより

平成29年3月

No.39

(最終号)



雑感

1月の最終日曜日は「世界ハンセン病の日」です。

ハンセン病は感染力の極めて低い細菌による感染症の一つです。また、適切な治療すれば治る病気であり、通院治療の可能な病気です。しかし、日本では、明治後期から平成8年（1996年）に「らい予防法」が廃止されるまで、誤った施設入所政策（隔離政策）などがとられました。そのため患者やその家族に激しい苦痛を与えるとともに、多くの人がこの病気に対して強い偏見を持つことになりました。ハンセン病に関しては、隔離が必要でないことは、第2次大戦後には、世界的

な潮流となっていました。どうして日本では、長期にわたって継続されたのか、憲法で基本的人権の尊重が謳われていたにもかかわらずという思いがします。

いくつかの原因が指摘されていますが、その一つには、社会の人々が、偏見により、「らい予防法」の廃止を求める患者さん運動を支援せず、廃止の世論形成が遅れたためであると思います。

このことは、偏見の持つ恐ろしさと、社会の出来事を正しく知ることの大切さを教えてくれています。

（事務局長 中山）

人権あれこれ



フェイクニュース（偽の情報）

NHKクロズアップ現代プラスで2日間にわたり、フェイクニュース特集が放映された。フェイクニュースとは、インターネットを通じて、拡散されたウソのニュースである。

番組では、「移民やイスラム教徒が警察を襲撃。ドイツ最古の教会を放火」「マイナンバーは役所で手続きすれば抹消できる」「熊本地震で動物園からライオンが逃げた」などのフェイクニュースが紹介されていた。

フェイクニュースが作られる動機を3つあげている。政治的意図（プロパガンダ）、愉快犯、ビジネスである。その中でビジネスが大きいと指摘。人々が関心を集める記事を書けば書くほどアクセス数が増え、広告収入が増えるそう。

フェイクニュースかどうかを個人の判断に委ねるのは非常に難しくなっている。そこで、新

しい試みとしてネット企業と大手メディアが連携し、疑わしいと一定量の通報があった投稿を大手メディアがジャーナリストのスキルを使って、自主的に検証するシステムを導入し始めている。

アメリカの調査でフェイクニュースを拡散したことのある人の割合が23パーセントだという。私たち一人ひとりがインターネットの持つ「加害の容易性」「匿名性」「被害の拡散」「被害回復の困難性」などの特性を十分に認識し、賢明な発信者と受信者になることが今こそますます求められている。



（研修講師 川崎）





一押し本

『LGBTなんでも聞いてみよう 中・高生が知りたいホントのところ』

QWRC&徳永桂子／著 子どもの未来社／発行 (1,300円＋税)

LGBTについて実際に中・高生からでた質問に答えるQ&A形式の本で、性の多様性を理解するには、とても読みやすいのでおすすめです。

性の考え方には「こころの性」「身体の性」「社会の性」「好きになる性」とあること。もし性について悩みがある場合は、どうしたらよいのかなど、最後には相談先の一覧が載っているので、学校には必備の本。男女という囚われ方をなくし、その人個人の尊重をしないといけないことが書かれています。

(企画啓発課 佐伯)



ちょっといい話

2月11日、大方町の球場で高知ファイティングドッグスの協力を得て、地元の小中学生に野球を通じて、人権に対する認識を高めてもらおうという人権野球教室を行いました。

人権に関するクイズのあとで、ファイティングドッグスの監督や選手に、野球の技術を指導してもらうとともに、チームワークの大切さや相手を思いやる心の大切さについて、紹介してもらいました。

その中で、特に、駒田監督は巨人時代の体験も交えながら、チームワークの大切さや相手を思いやること、家族の支援などに

ついて情熱をこめて話してくれ、話もうまくて、さすが監督でした。

小中学生も、熱心に話を聞いていましたが、あこがれの選手や監督に具体的に働きかけてもらう経験は、子どもたちに野球のみでなく人権にも強い印象を残し、大きな影響を与えることができると思いました。

これからも、できるだけ多くの小中学生に、あこがれのスポーツ選手と触れ合い、人権の発信をしてもらう機会を作りたいと思います。

(理事長 西尾)



事業報告

スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業

高知ユナイテッド SC と高知ファイティングドッグスと連携・協力し、人権サッカー教室及び人権野球教室を開催しました。



会場になったグラウンドには、横断幕とのぼり旗を掲出しました。

教室を始める前に行っているじんけん〇×クイズに合わせて、「挨拶や整理整頓、道具を大事にできる人が野球やサッカーが上手になる」や「点字ブロックの開発者は、目の見えない友だちのひとと言がきっかけで生まれた」などの話をしました。

教室の中でも、指導してくれた選手やコーチから「相手のことを思いやることが大切！相手を思いやって練習することで、個人もチームも強くなる」との言葉がありました。

また、野球教室では、高知ファイティングドッグスの駒田監督から、「負けた試合の次の日は、食堂ではスポーツ新聞を誰も読まない。負け試合でも成績の良かった人はいる。だけど、敗戦投手や、打てなかった人のことを考えて読まない。」という当時の巨人軍のお話をしてもらい、気遣いの大切さなど、子どもたちも興味津々で話を聞いていました。

① 日時：平成 29 年 1 月 29 日（日）14：30～

場所：宿毛市総合運動公園グラウンド

参加人数：62 人〈サッカー教室〉

② 日時：平成 29 年 2 月 4 日（土）14：00～

場所：南国市吾岡山グラウンド

参加人数：55 人〈サッカー教室〉

③ 日時：平成 29 年 2 月 11 日（土）15：00～

場所：黒潮町大方球場

参加人数：45 人〈野球教室〉



【子どもたちのアンケートより】

- これからもチームとコミュニケーションをとって、自分を支えてくれる人に感謝し、夢を叶えていきたいと思います。
- 人のことを考えて行動することが大事だとわかった。
- サッカーは一人ではできない。相手を思いやってパスをする。
- チームメイトや教えてくれる人、お父さん・お母さんに感謝したいと思った。
- これからも人権を大切にしていきたいです。習ったこともいかしたいです。

（企画啓発課 佐伯）

Information お知らせ



平成 28 年度人権啓発研修 ヒューマンパワー育成講座の紹介

女性たちが原動力となった『麒麟ビール高知支店の奇跡』講演会

いま企業には、差別のない男女「協働」の職場づくりが求められています。

- 日 時：2017年3月24日（金）
15:00～17:00
- 場 所：高知県立人権啓発センター6階ホール
- 参加費：無料
- 定 員：150名（先着順）
- お申し込み：郵送、FAX、メール、お電話で
お願いします。

【講 師】 田村 潤 氏

元麒麟ビール株式会社代表取締役副社長
100年プランニング代表

1950年、東京都生まれ。73年麒麟ビール岡山工場入社。95年に支店長として高知に赴任した後、2001年に四国四県の地区本部長、東海地区本部長を経て、2007年に代表取締役副社長兼営業本部長に就任。全国の営業の指揮を執り、09年、麒麟ビールのシェアの首位奪回を実現した。11年より100年プランニング代表。

【事例発表】 井上 真由美 氏

子育て応援 ZEROSAI 代表
元麒麟ビール高知支社勤務

講演会 女性たちが原動力となった『麒麟ビールの奇跡』
高知支店の奇跡
2017.3.24
時間 15:00～17:00
高知県立人権啓発センター6階ホール
定員150名（先着順、お申込みください）
参加費無料
講師 田村 潤 氏
元麒麟ビール株式会社代表取締役副社長
100年プランニング代表
事例発表 井上 真由美 氏
子育て応援 ZEROSAI 代表
元麒麟ビール高知支社勤務
〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号
TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440 e-mail center@kochi-jinken.or.jp
主催・（公財）高知県人権啓発センター・高知県 共催・高知県中小企業団体中央会 後援・高知県よろず支援拠点・日本経済連盟



【お 知 ら せ】

平成26年1月から、メール配信でスタート致しました「人権啓発センターだより」は、今月号（No. 39）で最終号になります。

今後は、平成29年度より新たに季刊号（年4回）として冊子を発行致しますので、引き続き皆様でご覧いただきますよう、よろしくお願い致します。

（企画啓発課 松本）

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp HP : http://www.kochi-jinken.or.jp/